



ええやんヒーロー

Vol.13
誰かのために 何かのために
活動している人を紹介します。

村上 竜司さん

1964年生まれ。山口市阿東出身、吉敷在住。大学卒業後、山口県庁へ就職。2000年に上東町内子ども会の会長となり、2003年に吉敷地区子ども会育成連絡協議会の会長に就任。山口市子ども会育成連絡協議会（市子連）事務局次長、山口市子ども会育成連絡協議会山口支部事務局長、吉敷地区青少年健全育成協議会副会長を兼務。
ブログ「吉敷子ども会育成会長のブログ」
<http://yoshikikodomokai.cocolog-nifty.com/blog/>



子どもは大人の背中から大切なことを学んでいる

彼らにも葛藤があると思いますが、JLとして責任を持つという貴重な経験を重ねることと成長し、そこに生きる力を見出し、いけると思っています。彼らの成長す

「むーさん」の愛称で地域の子どものために親しまれている村上竜司さん。子どもたちとともに活動し、子どもの手による子ども会を、また地域で子育てのできる仕組みづくりを目指されています。子ども会の活動を通じて、子どもたちや大人たちに思うこと、地域とのつながりなどについてお聞きしてきました。

「むーさん」の愛称で地域の子どものために親しまれている村上竜司さん。子どもたちとともに活動し、子どもの手による子ども会を、また地域で子育てのできる仕組みづくりを目指されています。子ども会の活動を通じて、子どもたちや大人たちに思うこと、地域とのつながりなどについてお聞きしてきました。

「むーさん」の愛称で地域の子どものために親しまれている村上竜司さん。子どもたちとともに活動し、子どもの手による子ども会を、また地域で子育てのできる仕組みづくりを目指されています。子ども会の活動を通じて、子どもたちや大人たちに思うこと、地域とのつながりなどについてお聞きしてきました。



子どもたちと体験活動を楽しむ、むーさん

子ども会に「子ども会の手による子ども会」を目指しています。中でも、各地区子ども会の小学生たちが参加する夏のリーダー研修会や冬のクリスマスキャラバンは、ボランティアの中高生ジュニアリーダー（以下、JL／4面に関連記事）が支えています。JLだけで企画運営のすべてを行い、小中学生を引っ張りまとめ、やり遂げます。数年前、市子連の山口支部では、新規JLのなり手がいない2年間の危機がありました。この時ばかりは参りましたね。小学生時代に参加経験のある中高生にJL募集のダイレクトメールを送り、声をかけ誘いました。約三百通送り…。そんな時期もあったので、JLの子たちの頑張りや、成長していく姿を見られるのが本当にうれしいんです。

彼らにも葛藤があると思いますが、JLとして責任を持つという貴重な経験を重ねることと成長し、そこに生きる力を見出し、いけると思っています。彼らの成長する姿を見守っているのは、市子連の中でJLの担当をしている私の喜びでもあります。

子ども会と地域
子ども会のいいところは、異年齢の子どもたちと関わる中で、多くのことを学べるということです。市子連の活動には小中高生の縦のつながりがあり、見守る大人もいます。思春期の子どもたちは、親よりも少し離れた関係の大人になら素直になれたりするので、学校や塾など以外でも、いろんな大人と関わればいいと思います。親にとっても、子ども会の存在が負担になるのではなく、子育ての負担が軽減できる子ども会でありたいと私は思っています。子育てを一段落した地域の大人が関わり、地域ぐるみで子育てを保証する、そんな仕組みづくりも必要だと感じています。

大人になっても楽しむ心！
私は子ども会に関わるようになって、地アドベンチャープログラム（TAP）やそば打ちなど、いろんなことに興味を持つようになりまし、子ども会のおかげで、素敵な出会いや新たな発見もありました。15年前、子ども会の当番を引き受けて本当によかったと思います。今、子ども会や町内会へ参加できない世帯もあり、子どもが地域から離れているように感じます。大人もぜひ、子ども会にも関わって、PTA活動や地域行事などにも参加して、楽しんでほしいと思います。地域や人とのつながりの大切さを親の背中から学んだ子どもたちは、きっと素敵な大人になると信じています。

特集 思春期の関わり

今年度、子どもを取り巻く環境をテーマに、子どもたちの育つ環境づくり、大人の関わり方などを考えているええやん新聞。「学童期の放課後」に続く第二弾として、今号では「思春期」にスポットを当て、子育ての実状や地域の取り組みを取材しました。



ちりめんじゃこと
なめ茸のおにぎり

【材料 4人分】

ご飯3合 / なめ茸1瓶 (60g) / ちりめんじゃこ (80gくらい)

【作り方】

温かいご飯に、なめ茸とちりめんじゃこを混ぜ合わせ、おにぎりを作る。



ちりめんじゃこで
出汁を取った味噌汁

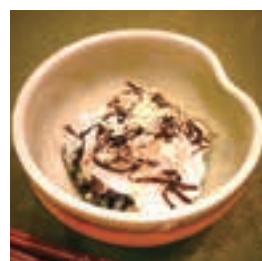
【材料 4人分】

油揚げ1枚 / じゃがいも中2個 / 水3カップ / ちりめんじゃこ10g / みそ大さじ2 / ねぎ適量

【作り方】

- ①油揚げは8等分、じゃがいもはさいの目、ねぎは小口切りにする。
- ②鍋に水を入れ、ちりめんじゃこ、油揚げ、じゃがいもを入れ火にかける。沸騰したら火を弱め、弱火で煮る。
- ③じゃがいもが柔らかくなったら、みそを入れる。仕上げにねぎをふる。

手軽で栄養満点。
忙しい朝にも
ピッタリ！



かぶの
ちりめんじゃこ
塩昆布和え

【材料 4人分】

かぶ1/2個 / 塩昆布適量 / ちりめんじゃこ適量
ごま適量 / 塩少々

【作り方】

- ①かぶをスライスして、ざるに入れ塩を加え、もみ、しぼる。
- ②残りの材料を入れて和える。
*味をみながら塩昆布をたす。

♪まごわやさしいレシピ ♪

あなたの身体 安定走行していますか？

朝は食べる気がしない。朝食をとる時間よりも睡眠を優先したい。昼食にまとめて食べるから大丈夫。そんな生活習慣になつていませんか？朝食をとらないと集中力が低下したり、精神的な安定を保つことが難しくなります。車はガソリンを定期的に注ぎ込むことで、安定した走行が可能になります。人も同じで、活動の原動力は、バランスのとれた1日3回の食事。偏食や食事をお菓子で代用し続けると、いくら寝ても寝たりない状態や常に身体がだるい状態に陥りやすくなります。乳幼児期は、目で見て子どもの身体の成長が分かるので、食育に力を入れる傾向にあります。しかし、思春期になると反抗期やダイエット思考の強い影響を受けやすいので、食育に対する意識が薄れがちになってしまいます。人生を最後まで元気に生きるため、まずは明日の朝食を見直してみませんか？

まごわやさしい
めまかさいも
めいなたけ

レシピ提供・協力

やまぐち食育くらぶ

代表 西本葉子さん
ブログ「やまぐち食育くらぶ」
<http://ukkycom.soreccha.jp/>



むーさん
イチオシ！

ジュニアリーダー
JLの声

ええやんビーブルの村上さん（1面）を魅了した
JLからお話を聞いてきました。

Q. 活動を始めたきっかけは？

私たちJLは年間を通して、子ども会議やリーダー研修会、クリスマスキャラバンなどの企画運営を主に行っています。通う高校も学年も違いますが、共通して言えるのは、小学生の頃に参加したリーダー研修などで、みんなを盛り上げてくれた当時のJLに憧れ、私たちもこんな風になりたいと思ったこと。これからの自分にとって必ずいい経験になると思いました。

Q. JLになって、何か変化はありましたか？

初めは分からないことだらけでしたが、仲間やOB、むーさんたちに助けてもらいながら活動をしています。参加者のテンションを上げ、やる気をどう引き出すか…。事前に準備をしても、当日になって状況が大きく変わり、

柔軟な対応を求められることもあるので、精神的に強くなったと思います。優先順位を考えて、効率よく、かつ積極的に行動できるようにもなりました。参加者の笑顔と「ありがとう」という言葉が何よりもうれしく、励みに感じています。

Q. 中高生のみなさんへ一言！

JLの活動は互いに協力し、さまざまな場面で成長し合える活動です。ちょっと興味がある、何かやってみたい、今の自分を变えたい！もっと自分を成長させたい！など思っている人は大歓迎です。私たちと一緒に活動しませんか？

お問合せは山口市子ども会育成連絡協議会まで
TEL 083-934-2866



加藤くん（高1）



杉山くん（高3）



渡辺さん（高1）



井上さん（高2）

尾木さん（高2）

クイズに答えて 手造り佃煮セットをもらおう

以下を明記のうえ、ご応募ください。

1. お名前・ご住所・年齢・職業・電話番号
2. クイズの答え
3. ええやん新聞を手に入れた場所
4. 取り上げて欲しいテーマ、市民活動団体
5. ええやん新聞13号へのご意見、ご感想



混ぜるだけでできる
本格いりこ佃煮

国産（長門市）
手造り佃煮セット

締切 2016 年
5 月 31 日

5 名様

宛先はこちら

〒753-0047 山口市道場門前1-2-19 さぼらんで
TEL 083-901-1166 FAX 083-901-1165 メール saporant@c-able.ne.jp
FAX、メール、はがき、持参にて必要項目をお書きの上、ご応募ください。



チャイルドラインやまぐちで、子どもからの電話相談を受けるスタッフは？

〇〇手

市民広報記者編集後記

NPO や市民活動に熱心のある市民が記者となり、
誰かのために何かのために活動している人たちを取材しました。

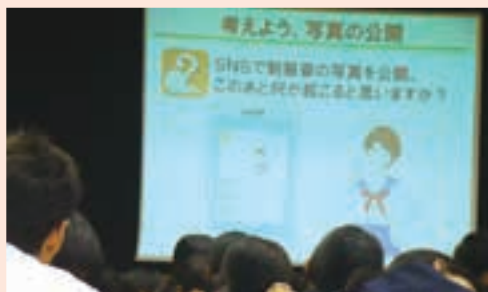


海原 いずれ来る我が子の思春期。取材を通して私の心構えができたように、できないようない。子育ては己育て。共に成長しよう、我が子たち！
私各、自分の表現力の乏しさに呆れていたり、たのびの胸のフリースタリしていたり、今更にもう一度読んでみたいんです！
さぼらんで小田 安心してんさい！
と言って笑顔をパツツを見せてくれるこの時期がいつか終わると思うとさみしくて、まあ大人になつてくるとよりは全然安心なかも。

携帯電話 スマホ、ソーシャルネットワーク(SNS)など、子どもたちはどんどん吸収し、取り入れていきます。これらの「メディア」と、どうつきあっていくのがベストなのでしょうか？

自分専用の携帯電話(スマートフォン等も含む)を持つ中学生は30%を超え、高校生になると94%を超えるという山口県の統計※があります。ネット端末は、手軽に情報収集が可能で便利な一方、使い方によっては勉強や睡眠不足の原因にもなり、トラブルや犯罪に巻き込まれてしまうことも…。

山口市内では、ネット端末を利用するにあたり、想定される危険やトラブルへの対応方法を学ぶ予防対策の一環として「スマホ・ケータイ安全教室」を開催している中学校もあります。白石中学校で行われた教室では、インターネットの基礎知識をはじめネット上での情報公開に潜むトラブル、顔が見えない人同士のコミュニケーションの難しさなど、スライドや動画を用いて分かりやすく解説。フィルタリングが未成年者に義務づけられていることや、子ども同士で「LINE」での連絡は21時まで、「また明日ね」などの合言葉で終わるようにするなどのルールを作り、それを守ることが大切だということを先生や保護者も一緒に学び



メディアとの正しいつきあい方を学んでおこう

ひとつでも
当てはまれば
要注意!

ケータイ依存度チェック

- ☐ 歩きながら操作をする
- ☐ 5分以内に返事がないとイライラする
- ☐ 起きてまずケータイチェック

取材協力
NTTドコモ「スマホ・ケータイ安全教室」
https://www.nttdocomo.co.jp/corporate/csr/safety/educational/



※山口県平成26年度実施児童生徒のインターネット利用実況調査より



http://blog.canpan.info/kodomo_s_j/archive/201

【メディア】

ました。

ますます進化していくメディアについて、子どもだけでなく周りの大人も一緒に学び、共有しておくことが安心安全なネット社会をつくる第一歩。学校での取り組みも大切ですが、まずは家庭で「メディアのルール」を話し合う機会を持つべきだと思います。そして、携帯電話を持つときは年齢に関係なく「責任」も携帯しなくてはならないのですね。



取材協力

チャイルドラインやまぐち

代表 三好美喜子さん
連絡先 0836-32-4287
特定非営利活動法人子ども劇場山口県センター内
http://kodomoymg.jp/child_line_about.php



2004年に開設。現在電話で直接子どもたちの悩みを聴く「受け手」15名、受け手の精神的フォローをする「支え手」4名で活動中。子どもたちのよき相談相手となり活躍して下さる方を募集しています。

思春期の悩み、助け隊!!

生まれてきてから、ギュッとつないでいた小さな手もいつの間にか大きくなっていきます。つなぎ続けたいと思う親をよそに、子どもの方が離れてしまう時がきます。子どもから大人に成長する過程で誰もが通る思春期…。何かと心配事・悩み事の多いこの時期を大人たちはどうサポートできるのでしょうか。小学4年生から高校生の保護者にアンケート調査を行い、ヒントを集めてみました。

【対人関係】

近年、核家族化、ひとり親家庭、メディア化が進むにつれ、複雑になってきたのが人間関係。誰かに相談したいけど、話す人がいない…と悩んでいませんか？

学校や部活に塾、仕事に送迎、夜中まで鳴るスマホ…。大人も子どもも忙しい世の中になっています。特に思春期の子どもは、家族や先生など身近な人に相談しにくいことが出てくるかもしれません。そんなときは電話相談に頼るのも一つの方法です。チャイルドラインやまぐちでは、養成講座を修了した「受け手」と呼ばれるボランティアスタッフが18歳以下の子どもからの電話相談を受け付けています。内容は人間関係、不安な心、性の悩みなど、ただ報告したい、聴いてほしいというだけでも大丈夫。



message

目線を合わせてウンウンと聴くだけでも、子どもの心は満たされます。幼いころからの小さな積み重ねが、思春期に生きてきますよ(三好)

してほしいです。気軽に電話してきてくださいね」と語る代表の三好さん。子どもが孤立しないよう、耳を傾けてくれる「相談できる大人」と関わる場をさりげなく提供してあげることも、思春期に悩む子どもへの策ではないでしょうか。悩みを吐き出せる場所って、親にも子にも必要なのですね。

ええやんアンケート調査

聞かせて

思春期の悩み

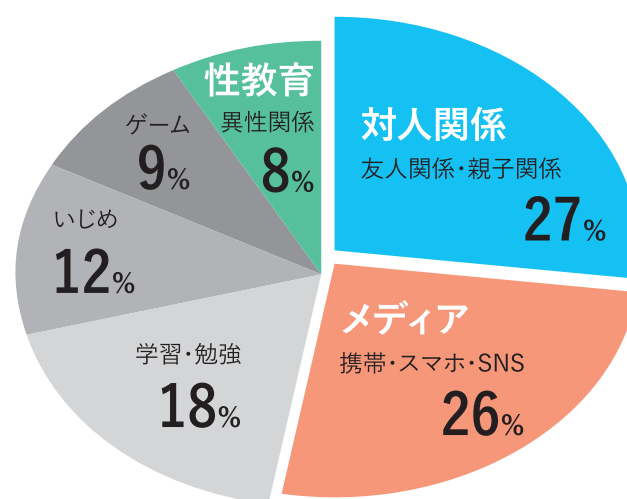
対象:小学4年生～高校生の保護者
回答数:107人

Q お子様は思春期に入っていると思いますか？

思う 71人 / 思わない 36人
わからない

アンケートの結果でまず印象的だったのは、思春期に入っていると「思う」と答えられた方の全てが小学5年生以上の保護者で、小学4年生の保護者はゼロだったこと。小学5年生が思春期の境であることがうかがえます。思春期前との違いについては「態度」「口調や言葉づかい」「第二次性徴」と回答しています。

Q 思春期の心配事・悩み事は何ですか？
(複数回答あり)



思春期の心配事・悩み事は上位から、友人関係(54人)、学習・勉強(47人)、携帯・スマホ(42人)、いじめ(32人)、SNS(27人)、ゲーム(25人)、異性関係(22人)、親子関係(17人)の結果となりました。その他、部活や不登校など学校生活に関わること、ダイエットやおこづかいなどの回答もありましたが、友人・親・異性・先生などの「対人関係」が一番の心配事・悩み事ようです。

Q 家庭でのルールはありますか？

・挨拶をきちんとすること/中1男子
・外出時の報告(いつ・どこで・誰と)をする/中2女子
・ゲームは1日1時間/中1男子
・携帯・スマホは基本リビングで21時まで/高2女子

どの家庭も、子どもの安心・安全を願い、見守る中で、これだけは守ってほしいという保護者の思いが込められたルールを設定されていました。

思春期を経験してきた大人として、子どもたちのその時を見守り、成長につながるサポートができるといいですね。

Q 家庭で性教育に取り組んでいますか？

学校に任せている…34%
生理については具体的に話をしている…30%
親子でオープンに相談している…30%
小さいころから話をしている…19%
男子はお父さんに任せている…17%

pick up!

絵本で性と生を学ぼう!

親から子どもへ伝えにくいのが、性のこと。性教育は学校に任せているという家庭も多いですが、オープンに相談している家庭もあるようです。どこまでをどのように子どもに話したらいいか…と、迷うかもしれませんが、子どもには興味本位などから間違った情報を取り込むのではなく、科学的根拠のあることを正しい知識や用語などで学んでほしいもの。幼児期から思春期の子どもでも幅広く認める絵本を使って、親子で学んでみるのもいいかもしれませんね。



『あっ！そうなんだ！性と生』
エイデル研究所

column 「おこづかい」で子どもの金銭感覚を

子どもにお金に対しての感覚を身に付けさせるのは学校の勉強と何ら変わらない。早いうちから始めることはベスト。ただ、大きい声では言えないが、金銭感覚の付いていない親に子どもの金銭教育ができるのだろうか、と、ちょっと疑問に思っている。金銭教育というと難しいことのように感じるが、このおこづかいこそがその感覚を身に付けさせるツールとしては第一歩。

さて、そのツール、どのように使ったらいいのだろうか。ここが問題である。年齢でも金額でもなく、その子にとってどの範囲のことが任せられるか、任せても大丈夫なのか、これを判断し金額を決めることが大切である。ではこの金額をどうやって決めたらいいのか。それには何のお金を与えるのか、そのおこづかいの目的をきちんと設定し、金額を割り出すこと。兄妹逆転ということもあるであろう。金額を決定するための会議も必要である。親子

で会議を開き、話し合って決定する。これも将来の勉強となるのではと感じる。親がやってはいけないことは、決めた金額の使い道を「ムダ遣いは駄目よ」などと親のものさしで測ること。何を持ってムダ遣いと言えるのか。おこづかいのうちにドンドン失敗させ、感覚を身に付けさせることが大事である。「貯蓄から投資へ」と言われる世の中、怖いと言っているは何も始まらないのではないだろうか。

memo

2016年4月ジュニアNISA
(少額投資非課税制度)開始

えんこや
縁小屋

ライフプラン・エンディングプラン等相談室
代表 中村久枝さん
ファイナンシャル・プランナー(CFP®)
経理アドバイザー

【思春期子育て体験事業レポート】

「今の自分がいるのは、親がいるから。たくさんのお金の支えがあって育つことができた」と、少しでも生徒が感じることであれば…。その思いが組み込まれた授業を白石中学校へ取材してきました。

「笑ってくれた!」「こんなに小さな手なのね」「泣いちゃった。どうしよう」

思春期を迎えた中学生が、乳幼児を前にして思わず口にした素直な気持ち。「ふれあい保育実習」には人と人とがふれあうぬくもりがあふれています。

山口市が実施している「思春期子育て体験事業」は、子育て支援拠点と同じ地区にある中学校が連携して行われます。思春期に乳幼児の親子とふれあう体験を通して命の大切さを実感し、親になるイメージを膨らませて地域関係を広げることを目指しています。



緊張しながら赤ちゃんにふれあう生徒たち



生徒の手作りおもちゃ

取材協力
特定非営利活動法人 あっと

代表 久保田美代さん
連絡先 083-921-0428
ほっとさろん西門前でとてと内
http://www.attohome.org/

